

# 定期接種化を検討しているワクチンの主な審議内容

ワクチン名	審議会における委員からの主な意見・審議内容等
<b>おたふくかぜ                      ワクチン</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮に広く接種をするに当たっては、より高い安全性が期待出来るワクチンの承認が前提であり、新たなMMRワクチンの開発が望まれる。(平成25年7月 第3回予防接種基本方針部会)</li> <li>単味ワクチンの副反応に関して、現在あるデータは不十分であり、さらなる調査研究が必要であるとされ、研究班で、単味ワクチン接種後の副反応に関する前向き調査を実施。(令和2年1月第15回ワクチン小委)</li> <li>単味ワクチンについては、研究班の報告から、接種後に一定の頻度で無菌性髄膜炎等が発症することが改めて確認された。また、MMRワクチンについては、国内で実施中の臨床試験が完了しており、企業へのヒアリング等を行い、ワクチンに関する知見を更に収集する方針。(令和6年1月24日 第23回ワクチン小委)</li> </ul>
<b>带状疱疹ワクチン</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知見の一定の集積を踏まえ、「組換えワクチンに関する知見(有効性、安全性、費用等)」「生ワクチンに関する新たな知見(有効性の持続期間等)」「組換えワクチンも含めた中立的な費用対効果評価」等の観点で、ファクトシートへの追記を国立感染症研究所に依頼。(令和5年11月 第21回ワクチン小委)</li> </ul>
<b>不活化ポリオ                      ワクチン</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不活化ポリオワクチンの5回目接種の必要性が議論され、4種混合ワクチンでの接種の検討も合わせて、引き続き議論することとなった。(平成30年9月 第11回ワクチン小委)</li> <li>定期接種化に向けて、今後の論点を整理した。(令和元年7月第13回・11月第14回ワクチン小委)</li> </ul>
<b>高齢者に対する                      肺炎球菌ワクチン                      (PPSV又はPCV)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>65歳の者に対して、PPSVを用いた定期接種を継続することが望ましいとされた。(平成31年以降)</li> <li>PPSVの再接種や、PCV13を用いたハイリスク者への接種については引き続き検討。(平成30年9月 第11回ワクチン小委)</li> </ul>
<b>沈降精製百日せき・                      ジフテリア・破傷風                      混合ワクチン</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>百日せきによる乳児の重症化予防を目的とした百日せきワクチンの定期接種化の検討にあたり、感染症発生動向調査の必要なデータがまとまった段階で、再度検討する方針。(平成29年11月 第7回ワクチン小委)</li> <li>定期接種化に向けて、6つの検討案が整理された。(令和2年1月第15回ワクチン小委)</li> <li>6つの検討案のうち、4種混合ワクチンの「接種開始時期の前倒し」を令和5年度から定期接種化した。</li> <li>残りの5つの検討案についても、必要なデータ等の取得の上で、順次検討を進めることとなった。</li> <li>5種混合ワクチンについては、ワクチンの有効性等の評価を踏まえ、令和6年度より定期接種化する方針。</li> </ul>
<b>HPVワクチンの                      男性への接種</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年12月に4価HPVワクチンの男性への適用拡大(肛門癌など)が薬事承認された。</li> <li>国立感染症研究所にファクトシート作成を依頼。(令和4年8月第19回ワクチン小委)</li> </ul>

新たな対象疾病  
 に関する検討

既に対象疾病で  
 ある疾患に係る  
 ・接種回数  
 ・年齢  
 ・接種するワクチンの種類  
 等に関する検討